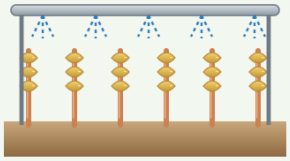
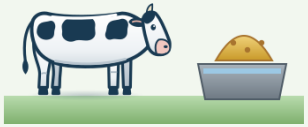
輸入した食料にふくまれる水（仮想水）

食料を輸入している日本は、目に見えない形でどれだけの水を外国に頼っていることになるのか



作物を育てる水

畑に水をまく（かんがい）



家畜を育てる水

飲み水と、えさの作物を育てる水

食料をつくるには、多くの水が要る

仮想水（バーチャルウォーター）



食料を輸入している国が、もし自分の国でその食料をつくるとしたら、どれだけの水が要るかを推定したもの。食料の輸入は、形を変えて水を輸入していると考える



1kg の食料をつくるのに要る水の量（推計）

単位：リットル



牛は穀物のえさを多く食べて育つので、牛肉には特に多くの水が要る。

日本全体では（2005年の推定）

約800億立方メートル

海外から日本に入った仮想水の量。その大半は食料による。
日本で1年間に使う水の量と同じくらい。

考えよう：水の少ない地域でつくられた食料を輸入するとき、どんなことに気をつける必要があるだろう。

※ 水の量は環境省などの推計（1kg あたりは「バーチャルウォーター量 一覧表」）。地図の矢印は模式。